

「とても NP がある」構文に関する一考察

鄧 超 群

要 旨

本稿では、程度副詞「とても」との共起が可能であることから、「私に（とても）自信がある」のような所有文を、普通の所有文と区別し、「とても NP がある」構文と称する。そして、このタイプの構文の意味的段階性は動詞「ある」ではなく、文中に使われる「が」格名詞（NP）の意味構造から来ていると主張し、Tsujiura (2001) に述べられた「とても」と共起する必要条件を検討しながら、「とても NP がある」構文に現れる名詞の種類と制約条件を考察した。その結果、①状態の成分、②段階的属性、③評価性、④抽象性、⑤譲渡不可能な所有性の5つの条件を満たす名詞がこのタイプの構文に出現することを明らかにした。

【キーワード：ある / 構文 / 「が」格名詞 / とても / 意味的段階性】

1. はじめに

日本語の「NP がある」構文は、(1) に示したように、様々な所有関係を表すことができる。

- (1) a. 私に (は) カシオの腕時計がある。
- b. 私に (は) 兄弟がある。
- c. 車に (は) エンジンとタイヤがある。
- d. 私に (は) 自信がある。

(1a) はモノの所有、(1b) は人間関係の所有、(1c) は部分・全体関係の所有、(1d) は属性の所有を表している。しかし、ともに所有関係を表していながら、この4つの文では文法的な違いが見られる。

- (2) a. *私に (は) とてもカシオの腕時計がある。
- b. *私に (は) とても兄弟がある。
- c. *車に (は) とてもエンジンとタイヤがある。
- d. 私に (は) とても自信がある。

(2) から分かるように、同じく所有関係を表すにもかかわらず、(2a～c) は「とても」という程度副詞と共起することができないのに対して、(2d) は「とても」と共起しても文法的に違和感が生じない。それはなぜであろうか。本稿は、同じ構造「とても NP がある」を持ちながら、(2a～c) が非文法的になる原因は名詞の意味素性の違いにあると主張し、その構造に入る「が」格名詞の意味素性を解明することを主な目的としている。

2. 先行研究

「とても」と共起する述語は段階性 (gradeability) を意味すると考えられる。この意味的な段階性はどこから来ているのであろうか。Tsujimura (2001) は程度副詞「とても」と共起する述語の意味的段階性が動詞の種類や意味構造から由来すると主張した。

まず、動詞の種類からいうと、Tsujimura (2001) は「とても」と共起できる動詞を「程度動詞 (Degree verb)」と名付け、日本語の心理動詞、放出動詞と状態変化動詞をこの類に入れた。

- (3) a. 太郎はとても喜んだ。(心理動詞)
- b. 星がとても輝いた。(放出動詞)
- c. 道がとても広がった。(状態変化動詞 I —形容詞からきた動詞)
- d. 内容がとても変わった。(状態変化動詞 II —形容詞からきた動詞以外)

(例文は Tsujimura (2001:34) の (18) ~ (21) より抜粋)

(3) の例文に示したように、心理動詞、放出動詞と状態変化動詞のいずれも程度副詞「とても」で修飾されうることから、程度動詞であると考えられる。Tsujimura (2001:35) では程度副詞「とても」を用いることによって、述語の意味的な段階性が強化されることになる述べている。

さらに、「とても」と共起する必要条件として、次の3つを設けている。

- (4) a. 動詞の事象構造には状態の成分 (STATE component) が入らなければならない。
- b. その状態の成分が段階的属性 (gradable property) を持たなければならない。
- c. スケール構造上の段階的属性は重要な基準 (nontrivial standard) で定義しなければならない。

(Tsujimura (2001:45)、筆者訳)

また、同じ動詞である場合は、二つ以上の意味を有する動詞は、その意味的な違いも「とても」で修飾できるか否かに反映されると述べている。例えば、

- (5) a. *ボールがとても落ちた。
- b. 成績がとても落ちた。

(5a) の「落ちる」は位置変化動詞で、その事象構造には状態の成分もなければ、段階的属性も持たないため、程度副詞「とても」と共起することができない。これに対して、(5b) の「成績」は100点から0点、或いはランク A から F の間で変化することを意味し、その間に段階的属性が見られるため、適格な文になると指摘されている。

しかし、Tsujimura (2001) の (5) に対する分析は非常に矛盾していると言わざるを得ない。というのは、Tsujimura (2001) の分析は、(5a) のポイントを「落ちる」という位置変化動詞に当てながら、(5b) は「成績」という名詞に重点を置いたため、一致していないように見える。言い換えれば、この分析のかなめになるのは動詞の意味構造ではなく、名詞の意味構造であるべきなのである。即ち、(5a) と (5b) では同じ動詞「落ちる」が、同じ文法構造「NP がとても落ちる」に用いられているため、段階的属性を持つと考えるには名詞の意味構造によるしかないことになる。

この構造 (「NP がとても落ちる」) に対する分析の要点は、本稿の研究対象である「とても NP がある」構文にも当てはまる。要するに、「とても NP がある」構文の意味的段階性は述語動詞「あ

る」に決定されるものではなく、「ある」と共起する名詞の意味構造に大きく依存すると考えられる。その理由としては次の二つが挙げられる。Ⅰ.「ある」は Tsujimura (2001) の名づけた「程度動詞」の類に入らないため、程度副詞と共起することができないはずであるが、実際に属性を表すときに程度副詞と共起する。Ⅱ.「ある」は状態動詞として、その事象構造には確かに状態の成分 (STATE component) があるが、その状態の成分が段階的属性 (gradable property) を持たない。

上記の2つの理由をもって、本稿では「とても NP がある」構文の意味的段階性は動詞「ある」ではなく、文中に使われる「が」格名詞 (NP) の意味構造から来ているとして論じていく。以下では Tsujimura (2001) が主張した「とても」と共起する必要条件を検討しながら、「とても NP がある」構文に現れる名詞の種類や制約条件を考察していきたい。

3. 「が」格名詞の種類

まず、「とても NP がある」構文に用いられる「が」格名詞 (NP) にはどんな種類があるかを考察するために、「中納言」という検索ツールを利用し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (通常版) BCCWJ-NT』から「とても NP がある」例文を抽出した。方法として、文字列のところを「とても %があ[りるれろっ]」という正規表現を使って検索をかけ (記号・補助記号・空白を除いた検索対象語数: 104,911,460)、抽出した例文から無関係なものを排除した結果、表1のような名詞とそれぞれの使用頻度が得られた。

表1 「とても NP がある」構文に用いられる「が」格名詞リスト

人気	20	興味	10	効果	5	関心	4	風情	3
活気	3	迫力	3	勇気	3	自信	3	営業力	2
刺激	2	リアリティ	2	やりがい	2	存在感	2	抵抗	2
力	2	愛嬌 (愛敬)	2	思いやり	2	魅力	2	意義	2
栄養	2	コシ	1	コク	1	暖かみ	1	とろみ	1
愛着	1	メリット	1	安定感	1	趣	1	才能	1
誠意	1	ユーモア	1	緊迫感	1	責任感	1	違和感	1
関連	1	働きがい	1	説得力	1	殺菌力	1	吸引力	1
雰囲気	1	落ち着き	1	気	1	親しみ	1	限界	1
見応え	1	手ごたえ	1	歯ごたえ	1	品位	1	信頼	1
気迫	1	個人差	1	作用	1				

延べ語数110、異なり語数53。数字 (n) が使用頻度を表す。

表1 から分かるように、「とても NP がある」構文に入る「が」格名詞は、形態的に見れば、形容詞・動詞・名詞性接尾辞によって派生したもの、いわゆる抽象名詞がほとんどである。例えば、形容詞から派生したものに「暖かみ」「親しみ」があり、動詞から派生したものに「手ごたえ」「見応え」「歯ごたえ」「落ち着き」「とろみ」、サ変動詞の語幹「刺激」「抵抗」「愛着」「信頼」、名詞性接尾辞「～感」によって派生したものに「存在感」「安定感」「緊迫感」「責任感」「違和感」、名詞性接尾辞「～力」によって派生したものに「営業力」「説得力」「殺菌力」「吸引力」「魅力」、名詞性接尾辞「～気」

によって派生したものに「人気」「活気」「雰囲気」「勇氣」などが挙げられる。また、英語の名詞や形容詞からきたもの「リアリティ」「メリット」「ユーモア」などもこの種類に入っている。

次に意味用法からみると、これらの名詞を次の五つのタイプに分類することができよう。

I. ものごとに対する心理活動を表す名詞

- (6) a. 私はどちらかというときさぬきうどんのようにとてもコシや菌ごたえがあるような麺が好きです。 (Yahoo! ブログ)
- b. 子供たちもこの家にとても愛着があり、将来、住み継ぎたいといっているんですよ。 (『新しい住まいの設計』)
- c. 初夏の空にのびる花穂はボリュームたっぷりで、とても存在感があります。 (『季節の草花多年草・球根』)
- d. その意味では、とても刺激がありました (『主役』)

上述の4つの例文はすべて心理活動を描写する文であり、その中、(6a)の「菌ごたえ」はさぬきうどんを噛んだときに菌に受ける抵抗感、(6b)の「愛着」は子供たちがこの家に対して好きでならない気持ち、(6c)の「存在感」は初夏の空にのびる花穂がそこに確かに存在しているという実感、(6d)の「刺激」は外部から働きかけて人の感情や精神を興奮させることを表している。また、このタイプに入る名詞は心理名詞であることが多いのが特徴であり、ほかにも「興味」「関心」「自信」「信頼」「思いやり」「勇氣」「誠意」「緊迫感」「違和感」「安定感」「責任感」「手ごたえ」「気」「抵抗」などが挙げられる。

II. ものごとの性質・性状・状態を表す名詞

- (7) a. この焼酎はとてもコクがあります。 (Yahoo! ブログ)
- b. 「どうですか、蘭州は？」「とても風情があって面白いです。 (『冒険女王』)
- c. やり直しがきかないという生放送の緊張感も、とても魅力があったし。 (『8時だよ！全員集合の作り方』)
- d. 日本は地震国なので、とてもリアリティがあります。 (『ハンマー・オブ・エデン』)

(7)の5つの例文はものごとの性質や性状、特徴などを描写する文である。その中で、(7a)はこの焼酎の特徴がコクがあること、(7b)は蘭州の特徴は風情があること、(7c)は生放送の緊張感が魅力的であること、(7d)は地震国である日本では迫真性・実現可能性があることなどを表している。このタイプに入る名詞は性状名詞であることが特徴であり、(7)に挙げられたもの以外に、「人気」「効果」「活気」「愛嬌」「コシ」「暖かみ」「とろみ」「栄養」「メリット」「ユーモア」「趣」「雰囲気」「限界」「落ち着き」などがある。

III. ものごとの価値・意義を表す名詞

- (8) a. 飛雲のような鉄呈色の黒褐斑もとても品位がある。 (『花入』)

b. 「いつも声をかけてもらってありがとうございます。おばあちゃんが、労をねぎらって下さるので、とても働きがいがあるんですよ」と礼を言われた。 (『老春謳歌』)

c. そういう方に案内をしてもらっての製糖工場の見学はとても意義がありますよ。

(Yahoo! ブログ)

d. 先人の言葉というのはとても意味がある¹。

(8) の例文はものごとの価値や意義を描写する文である。(8a) は(壺の表面に見られる)飛雲のような黒褐斑の存在は下品ではなく、かえって上品であり、見る価値がそなわっていること、(8b) はいつも感謝されているため、仕事の価値が感じられたこと、(8c) は製糖工場を見学した価値や重要性、(8d) は先人の言葉の価値と意義を表している。なお、このタイプに入る名詞は価値名詞であることが特徴であり、上記の単語のほかにも、「見応え」「やりがい」などが見られた。

IV. ものごとの力・作用を表す名詞

(9) a. キヤノン EOS D 六十.二八~七十ミリ F2.8・絞り F 3.5・350分の1秒目線が来ている写真というのはそれだけで印象強くなりますが、この作品はその目にとても力があるように思います。 (『アサヒカメラ』)

b. 現代人がもっている特殊性は、別の人類と共存するプロセスで開発されただろうと、とても説得力がある議論ですね。 (『サルに探る文明の起源』)

c. 国慶式典の行進はとても気迫があって、すばらしいものでした。 (『時は流れて』)

d. 彼はとても才能があるので、テニスに集中する必要がないと思っているんだよ。

(『スマッシュ』)

(9) の例文はものごとの能力やパワーを描写する文である。その中で、(9a) はキヤノン EOS D シリーズの一眼レフカメラを使って撮った写真に写っている被写体の目が持つ魅力、(9b) は議論が相手を納得させたり相手に受け入れさせたりする力、(9c) は国慶式典の行進が持つ強い迫力、(9d) は彼のある分野における能力を表現している。このタイプに入る名詞は力を表す名詞であることが特徴であり、ほかにも「作用」「働き」「殺菌力」「吸引力」「営業力」などが挙げられ、特に接尾辞「～力」からなる単語が多く見られる。

V. ものごとの間の関係を表す名詞

(10) a. 過食や運動不足による肥満を基礎とする疾患であることから、糖尿病ととても関連があります。 (『広報しぶかわ』)

b. ダイエットとにきびがとても関係があることを知っていますか²。

(10a) は肥満を基礎とする疾患と糖尿病との関係、(10b) はダイエットとにきびの関連性を描

1 【NAVERまとめ】 <http://matome.naver.jp/odai/2146242794836454101/2146243035339899703> (2016年11月26日)

2 【お嬢様酵素】 <http://xn--az-w73a802q9mpgo0a8z3a.biz/entry11.html> (2016年11月26日)

写する文である。このタイプの名詞は、表1のリストに現れたのは「関連」しかなかったが、インターネットで検索をかけたところ、同じ意味を表す「とても関係がある」「とても関わりがある」なども発見された。

以上、「とても NP がある」構文における「が」格名詞にどんな種類のものがあるのかを考察してきた。しかし、これらの名詞は具体的にどんな制約条件を満たした上で「とても NP がある」構文に入るのかはまだ未解明である。Tsujimura (2001) では、(4) に提示された3つの必要条件（具体的には、①状態の成分 (STATE component)、②段階的属性 (gradable property)、③重要な基準 (nontrivial standard) を設定したが、3つ目の重要な基準 (nontrivial standard) とは何かを詳しく述べていない。以下では Tsujimura (2001) を参考にしながら、程度副詞「とても」と共起する「NP がある」構造における NP の制約条件をいくつか設けて検証していきたい。

4. 「が」格名詞の制約条件

本節では、Tsujimura (2001) が提唱した必要条件を検討しながら、「とても NP がある」構文に入る「が」格名詞の意味的制約条件を考察することにする。そして結論を先に言うならば、①状態の成分、②段階的属性、③評価性、④抽象性、⑤譲渡不可能な所有性の5つの条件を満たした名詞こそが「とても NP がある」構文に入ることができると考えられる。以下では、この5つの条件を順次検討していく。

4. 1 状態の成分

Tsujimura (2001) では、「とても」と共起する述語には、3つの必要な条件があると述べられているが、その中の1番目は「動詞の事象構造には状態の成分 (STATE component) が入らなければならない」ということである。「ある」は状態動詞であるため、Pustejovsky (1995) の方法に従うと、その事象構造 (EVENTSTR) は (11) のように記述することができる。即ち、その中に状態の成分が含まれているのである。

(11) ある

ARGSTR = ARG1 = x : physical object

ARG2 = y : location

EVENTSTR = e : state

QUALIASTR = FORMAL = exist (e,x,y)

しかし前にも述べたように、二つ以上の意味を有する動詞は、その述語の意味的な違いは動詞の事象構造のみに決定されるものではなく、述語のほかの成分にも大きく頼ることになる。この点から、「とても NP がある」構文の意味的段階性は動詞「ある」の事象構造に状態の成分が入っているかどうかを問題にするだけでなく、「ある」と共起する名詞の意味構造にも状態の成分が入らなければならない、ということが推測されるであろう。

Tsujimura (2001) は事象構造に状態の成分が入る動詞として、心理動詞、放出動詞と状態変化動

詞の三種類を挙げ、これらの動詞を「程度動詞」と名づけた。以下で Tsujimura (2001) が挙げたこの三種類の程度副詞をそれぞれ名詞形に直し、程度副詞「とても」と共起することができるか否かをテストする。

(12) 心理動詞 → 心理名詞

- a. とても苦しんだ。 → とても苦しみがあった。
- b. とても喜んだ。 → とても喜びがあった。
- c. とても驚いた。 → とても驚きがあった。

(13) 放出動詞 → 放出名詞

- a. とても光った。 → とても光があった。
- b. とても輝いた。 → とても輝きがあった。
- c. とてもきらめいた。 → とてもきらめきがあった。

(14) 形容詞からきた動詞 → 形容詞からきた名詞

- a. とても暖まった。 → とても暖かみがあった。
- b. とても広がった。 → とても広さがあった。

(12) (13) (14) の例文では各種類の程度動詞を名詞の形にして、「とても」と共起できるか否かをテストしたが、その結果、名詞の形でも「とても」で修飾することができることが分かった。その理由として、「とても」と共起する程度動詞が、名詞の形になっても、その名詞の事象構造には状態の成分が残っていることが考えられる。

一方、Tsujimura (2001) で挙げられた程度動詞以外の動詞とその名詞形でテストすると、いずれも不適格な文になってしまう。

(15) a. *子供はとても叫んだ。 → *子供はとても叫びがあった。

b. *太郎はとても走った。 → *太郎はとても走りがあった。

c. *太郎はとても笑った。 → *太郎はとても笑いがあった。

d. *船はとても沈んだ。 → *船はとても沈みがあった。

(16) a. *おもちゃはとても壊れた。 → *おもちゃはとても壊れがあった。

b. *木の枝はとても折れた。 → *木の枝はとても折れがあった。

c. *皿はとても割れた。 → *皿はとても割れがあった。

d. *猫はとても死んだ。 → *猫はとても死にがあった。

(17) a. *針はとても曲がった。 → 針はとても曲がっている。

→ ?針はとても曲がりがあった。

b. *トーストがとても焦げた。 → トーストはとても焦げている。

→ ?トーストはとても焦げがあった。

c. *アイスクリームはとても氷った。 → アイスクリームはとても氷っている。

→ ?アイスクリームはとても氷りがあった。

d. *洗濯物はとても乾いた。 → 洗濯物はとても乾いている。

→ ?洗濯物はとても乾きがあった。

上記の(15)は動作動詞であり、動作性を持っているが、状態の成分がないため、「とても」で修飾することができない。(16)は結果動詞であり、その結果に状態の成分を帯びているはずであるが、それでも「とても」で修飾することができない。また、(17)は状態動詞であり、そのままの形で「とても」で修飾することはできないが、「ている」形に変えると、程度副詞「とても」と共起することができる。しかし、それでも、名詞形の形では「とても」で修飾することが難しいようである。それはなぜだろうか。その状態の成分に段階的属性がないからと考えられるかもしれない。この点については次節で詳しく検討することにする。

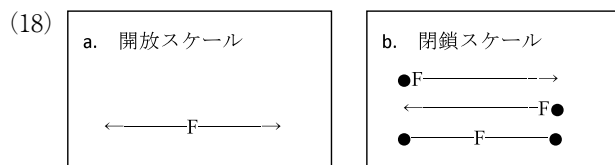
要するに、状態の成分が付いていないものは程度副詞「とても」で修飾することができない。そして、状態の成分が付いていても、それに段階的属性がない限り、程度副詞「とても」で修飾することはやはりできない。つまり、状態の成分は「とても NP がある」構文に入る必要な制約条件の一つであるが、十分条件ではない。状態の成分に加え、段階的属性を持つことが重要な制約条件になると言えよう。

4. 2 段階的属性

前節で述べたように、述語の事象構造に、状態の成分に加え、段階的属性を有することが「とても NP がある」構文に入る重要な制約条件になる。しかし、この段階的属性がどこから来ているのかはこの構造においてまだ未解明の課題である。本稿は前述の考察を踏まえ、「とても NP がある」構文において、段階的属性は主に文中に用いられる「が」格名詞 (NP) の意味構造によるものであるとし、以下ではスケール構造 (Scale Structure) を援用し、その段階的属性を考察していく。

スケール構造はもともと形容詞の意味的段階性を考量する重要な手段の一つ (Kennedy (1997)、Kennedy & McNally (1999, 2005)) であったが、後に動詞 (Tsujimura (2001)) や、結果構文 (小野 (2007)、三原 (2009))、重複語 (小野 (2015)) の研究にも用いられるようになった。要するに、形容詞だけでなく、意味的段階性が含まれている様々な述語 (動詞、結果構文、重複語など) の研究においても、スケール構造は有効な考察手段の一つであるため、本稿の研究対象の「NP がある」というタイプの構文の段階的属性を考察するのに最適な手段になると思われる。

Kennedy & McNally (1999, 2005) によると、スケール構造は極点 (endpoint) があるかどうかで「開放スケール (Open Scale)」と「閉鎖スケール (Closed Scale)」に分かれる。



(18) に図示されているように、開放スケールの特徴は F を基準点にして線の相対する両方向においても、ある程度の幅を持っていることである。それに対して、閉鎖スケールは片方に極点があり、基準点 F が極点の反対方向にしか伸びることができない。つまり、開放スケールは線の両方とも開

いているが、閉鎖スケールは線の片方か両方が閉まっているのが特徴である。このことを文の構造に反映させると、開放スケールの述語は極点がなく、“very (とても)”によって修飾されるのに対して、閉鎖スケールの述語は最小か最大の極点、つまり片方か両方に極点を有しており、“completely (完全に)”によって修飾されることになる。

(19) 開放スケール

- a. very tall/short/interesting/inexpensive
- b. とても背が高い / 短い / おもしろい / 安い
- c. *完全に背が高い / 短い / おもしろい / 安い

(20) 閉鎖スケール

- a. completely empty/full/awake
- b. 完全に空である / いっぱいである / 目が覚めている
- c. *とても空である / いっぱいである / 目が覚めている

(19) の例文に出てくる「背が高い」「短い」「おもしろい」「安い」などは、意味的に一定の幅を持っており、そして基準点 F がその間で変化していると思われる。ここで「背が高い / 低い」を例にして説明する。たとえば日本人の男性の身長は150cm～185cm が普通であるとして、田中さんは180cm の身長を持っているならば、「とても背が高い」と言われる。一方、その身長は欧米の男性に比べれば、「とても背が低い」ことになるだろう。しかし、日本人にしても欧米人にしても、「完全に背が高い / 低い」ということにならない。というのは、人の身長は0 cm になることもないし、無制限に伸びることもできない。一定範囲の幅を有することが常識である。それに対して、(20) の例文では、「空である」は最小の極点があり、またその反義語の「いっぱいである」は最大の極点を持つように、片方に極点を持っているという違いを示している。

このことを「とても NP がある」構文でテストしてみると、この構文は「とても」で修飾することができるのに対して、「完全に」で修飾することはできない。したがって「とても NP がある」構文には極点がなく、開放スケールを持っていることが裏付けられると言えよう。

- (21) a. とても人気 / 自信 / 興味 / 関心 / やりがいがある。
- b. *完全に人気 / 自信 / 興味 / 関心 / やりがいがある。
- c. 完全に人気 / 自信 / 興味 / 関心 / やりがいがない。

(21) 「人気」「自信」「興味」「関心」「やりがい」などは、一定の意味範囲内の幅を持っており、最小の極点もなければ、最大の極点もない。それゆえ、一定の意味範囲内の程度を表す「とても」と共起することができるが、片方の極点を表す「完全に」と共起することができない。一方、否定文にする場合は、最小の極点ができるようになり、「完全に～ない」の文型を用いることができる。

要するに、このタイプの構文に入る必要な制約条件の一つとして、状態の成分に段階的属性があることが挙げられ、特にこの二点 (①状態の成分、②段階的属性) が肝心のポイントになる。Tsujiura (2001) でも、主にこの二点をキーポイントにして論じられたが、3つ目の重要な基準 (nontrivial standard) については、あまり触れていなかった。以下では「とても NP がある」構文

に入る「が」格名詞の意味の制約条件を検討しながら、いくつかの重要な基準を補足して考察していく。

4. 3 評価性

Tsujimura (2001) は「とても」で修飾する動詞文の意味的段階性は一般の基準 (trivial standard) で定義するのが難しく、話し手の主観的判断や前後の文脈に大きく依存していると論じた。この点は「とても NP がある」構文においても当てはまるであろう。

(22) a. この駐車場は無料で、裏手にひっそりと池があり、とても風情があります。

(Yahoo! ブログ)

b. 学校での成績も良いし、四ヶ国語の言葉も話せる優等生ですので、とても自信がありました。けど、行きたい会社 (5 社) に全部断れて、とてもがっかりしています。

(Yahoo! 知恵袋)

(22a) の「風情」について、駐車場の裏手に存在する池に「風情」があるかどうかは話し手のその場の心境や前後のコンテキストによって判断するものである。つまりある人にとって「風情」があるものは、ほかの人にとっては「風情」があるとは限らないこともあり、「無料」に加えての池なので風情があることになるかもしれない。即ち、話し手のその場に対する主観的な判断が大切であろう。(22b) の「自信」も前後の文脈とその持ち主の雰囲気からの話し手の判断によるものであると言える。成績と言語能力の面では自信があっても、すべての面においては自信があるとは限らない。要するに、これらの述語の意味は、定められた基準で測るのが難しく、話し手のその場の心境や前後のコンテキストに依存して判断するしかない。この話し手の主観的な判断という要素を、本稿では評価性と呼ぶことにする。そして評価性は「とても NP がある」構文の意味的段階性を認定する重要な基準の一つであると考えられる。

(23) a. しかしこの人々が、歓喜する一瞬、創造している瞬間に生まれる感銘などに、私はとても関心がある。

(『フラーニャと私』)

b. 夏は島の最盛期で、とても活気があります。

(『Yahoo! 知恵袋』)

c. 留学のもうひとつの意味、すなわち異文化に触れることによって自文化を相対的に見つめるという点でも、ハワイの留学はとても意義があるといえます。

(『夢のハワイ暮らしが実現できる本』)

d. 一般の素人の方がゲストに出演された時でも、必ず最後まで送っていくような人で、とても誠意がある。

(『手紙の力』)

(23) の例文から分かるように、「NP がある」という組み合わせは程度副詞「とても」で修飾することによって、話し手の主観的判断、つまり評価性が出てくる。「とても関心がある」「とても活気がある」「とても意義がある」「とても誠意がある」のように、この構造における話し手の評価性はプラス評価がほとんどである。一方、「とても制限がある」「とても限界がある」「とても個人差がある」のような中立的な評価も見られるが、「*とても妨害がある」「*とても差支えがある」の

ようなマイナス評価になることはあまりない。要するにこの構造に入る名詞には、中立的かプラス評価性を持つという特徴があると考えられる。

これと似たような発想は中国語の“有 NP”構造の研究にも見られた。石（2004）は社会平均値の視点から“有 NP”構造における名詞の意味を制限した。社会平均値とは、ある社会、生活環境、あるいは具体的な文脈の中で、多数のメンバーが所有するある属性の「普通の程度」を指す。具体的には、“有 NP”構造に入る名詞は、社会平均値を計算の原点とするものなら、意味的な段階性があり、0を計算の原点とするものなら、意味的な段階性がないということになる。例えば“有学問（学問がある）”について見てみると、一般人なら誰でも多かれ少なかれの学問知識を持っており、意味的段階性がある。そして、社会平均値から計算して、普通の人より知識が多い場合こそ、程度副詞“很（とても）”で修飾することができ、プラス評価になる。ほかに、“很有价值（とても価値がある）”“很有见地（とても見識がある）”“很有涵养（自制力が強い）”“很有意义（とても意義がある）”“很有才华（とても才能がある）”などのプラス評価の表現が数多く存在し、マイナス評価の表現はあまり見られない。一方、“有消息（ニュースがある）”は有る無しの区別だけで、0を計算の原点とするものである。したがって、意味的な段階性を持っておらず、プラス・マイナスの評価にもならないため、程度副詞“很（とても）”で修飾することはできない。

日本語の「とても NP がある」構文の場合にもその解釈を当てはめることができよう。「関心がある」「活気がある」「意義がある」「誠意がある」「人気がある」などは、みな社会平均値を計算の原点とするものなので、その平均値より高い場合は程度副詞「とても」で修飾することができ、評価性を持つようになる。一方、「机がある」「腕時計がある」「兄弟がある」「妻がある」のような場合は、存在するか否かで区別が付き、0を計算の原点とするものなので、もちろん意味的な段階性も持っておらず、評価にもならないのであろう。

要するに、「とても NP がある」構文に用いられる「が」格名詞 NP の制約条件の一つとして、評価性を帯びることが挙げられる。

4. 4 抽象性

表1のリストから、「とても NP がある」構文に入る名詞は、すべて抽象名詞であることが分かる。抽象名詞は、性質、状態などのような無形のものや、抽象的な概念を表す名詞であり、基本的に「抽象性」を持つということになる。抽象性とは、「ありのままの事物を抽象することによって得られる一般的・観念的な性質」（『大辞林』三省堂）を指す。これは具象名詞の特徴と反対である。例えば、(1) の例のなかに出てきた「カシオの腕時計」、「兄弟」、「自信」の3つの名詞であるが、「カシオの腕時計」は実際の形を持っており、手に取って触ったり、指針を調整したりすることができる。「兄弟」は親族名詞の一つであり、実際の形も持っていなければ、手に取って触ったりすることもできないが、この単語を聞くたびに、わりと具体的な人のイメージ（男か女かは個人差があるかもしれないが）が浮かんでくる。しかし、この二つの名詞に対して、「自信」というのは抽象的なものであり、形もなければ、手で触ったりすることもできず、あくまで心でしか感じられないも

のである。いわゆる抽象度が高い名詞である。以下で表1の名詞を再掲する。

- (24) 人気、興味、効果、関心、風情、活気、迫力、勇気、自信、営業力、やりがい、リアリティ、刺激、存在感、抵抗、力、魅力、栄養、思いやり、意義、愛嬌（愛敬）、コシ、コク、暖かみ、とろみ、愛着、メリット、ユーモア、趣、才能、誠意、安定感、緊迫感、責任感、違和感、働きがい、関連、説得力、殺菌力、吸引力、雰囲気、親しみ、気、落ち着き、限界、手ごたえ、見応え、歯ごたえ、品位、信頼、気迫、個人差

これらの名詞は、いずれも実際の形がなく、抽象性が高い概念、人間の心理活動、或いはものごとの性質や属性を表すものであり、且つ「とても NP がある」構文に用いられることができる。なお、表1は『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』から抽出した、程度副詞「とても」と共起する名詞の例のみであるが、ほかの程度副詞「非常に」「たいへん」「かなり」「きわめて」「なかなか」などと共起するものも数多くある。次に「とても」以外の程度副詞と共起する名詞の例も少し挙げてみる。

- (25) a. そういった意味では、この手紙は非常に信憑性があります。

(『トルーマン・レター』)

- b. その上、ふたりの過去のおこないはほじくりだされ、たいへん独創性があることが発見された。

(『トム・ソーヤーの冒険』)

- c. 今の学校のクラス社会には暗闘という複雑なものがあり、その本来の目的を達成するのにはきわめて困難があるといわなければならない。

(『現代っ子 相談室』)

- d. サファラーニは大柄の女性で、なかなか威厳があった

(『共生の森』)

(25a)の「信憑性」は情報や証言などに対して信用してよい度合い。真実性・信頼度である。(25b)の「独創性」は独自の考えで物事をつくり出す能力、または、新しい物事がもつそのような性質を表す。(25c)の「困難」は物事をするのが非常にむずかしいこと、または、そのさま、難儀であることを表す。(25d)の「威厳」は威光があつておごそかなこと、近づきたいほど堂々として立派であることを表す。以上の例などは、いずれも抽象性が高い名詞である。言い換えると、抽象名詞であるからこそ、程度副詞に修飾されうるのである。

一方、具象名詞の場合は、この構文に入ることができない。例えば、

- (26) a. [もの名詞] * とても 本 / 石 / お茶 / 石鯨 / サラダ / 大根がある。

- b. [ヒト名詞] * とても 先生 / 田中さん / 彼女 / 祖母 / 知り合いがある

- c. [組織名詞] * とても アメリカ / 祖国 / 中央銀行 / 理工大学がある

- d. [場所名詞] * とても 教室 / 運動場 / 富士山 / 天安門 / 隅田川がある

(26)の下線を引いたものは、いずれも実体名詞の下位タイプに属するものであり、実際の形を持っている具体的なモノやヒト、組織、場所を表す名詞である。こういう具象名詞の場合は、数量の多寡があるものの、程度の高さが普通はないため、程度副詞で修飾されることが難しいと考えられる。したがって、抽象性を持つことは、「とても NP がある」構文に入る名詞の必要な制約条件の一つとして挙げられよう。

4. 5 譲渡不可能な所有性

前述したように、「私は自信がある」のような文は伝統的な言語学の分析では、「所有文」に分類される。それは「私は自信がある」文が所有性を持っていると考えられるからであろう。Heine (1997b)によると、所有は「譲渡可能な所有 (alienable possession)」と「譲渡不可能の所有 (inalienable possession)」の二種類に分けられている。譲渡可能な所有とは、所有者が所有物を自分から離し別の誰かに移転しうることである。例えば「私の本」「彼のコップ」などのようなモノの所有が大体このタイプに属する。それに対して、譲渡不可能な所有は以下の項目が含まれている。

(27) a. 親族関係 (kinship roles)

b. 身体部位 (body-parts)

c. 相対的な空間概念 (relational spatial concepts)。例えば “top (頂上)” “bottom (底)” “interior (内部)” など

d. 物体の固有的な部分 (inherent parts of other items)。例えば “branch (枝)” “handle (ハンドル)” など

e. 身体的・精神的状態 (physical and mental state)。例えば “strength (力)” “fear (恐怖感)” など

f. 名詞化 (nominalization) したもの。例えば “his singing (彼が歌うこと)” “the planting of bananas (バナナの植え付け)” など

g. 上記の6つに加え、特定の概念 (individual concepts) もよく「譲渡不可能な所有」と見なされている、例えば “name (名前)” “voice (声)” “smell (におい)” “shadow (影)” “footprint (足跡)” “property (財産)” “home (家)” など

(Heine (1997b:10)、日本語は筆者訳)

上記の説明から判断すると、表1にリストアップされた名詞は、大体 (27e~g) の三種類 (中に重なっている部分もあるが) に入っており、譲渡不可能な所有性を持っていることが分かる。

(27) e. 身体的・精神的状態：力、勇気、気、自信、存在感、責任感、違和感、安定感、緊迫感、愛着、思いやり、落ち着き、関心、刺激、興味、…

f. 名詞化したもの：愛着、思いやり、落ち着き、手応え、見応え、歯応え、とろみ、暖かみ、親しみ、信頼、関心、刺激、抵抗、関連、説得力、殺菌力、吸引力、…

g. 特定の概念：人気、効果、風情、品位、コク、ユーモア、趣、魅力、愛嬌、誠意、栄養、勇気、自身、責任感…

要するに、(27e~g) の部分に当てはまる名詞は基本的に「とても NP がある」構文に入ることができる。しかし、それ以外の譲渡不可能なものはどうであろう。次に (27a~d) の項目を検討してみる。

(28) a. 親族関係

* とても妻 / 夫 / 兄弟 / 娘 / 妹がある

b. 身体部位

* とても手 / 足 / 顔 / 目 / 耳がある

c. 相対的な空間概念

* とても上 / 下 / 中 / 外 / 底がある

d. 物体の固有的な部分

* とても枝 / 茎 / 軸 / ハンドル / タイヤがある

(25) から分かるように、譲渡不可能な所有でありながら、親族関係・身体部位・相対的な空間概念・物体の固有的な部分の4つの項目に該当する名詞は「とても NP がある」構文に入れることができない。その理由を探ってみると、親族関係、身体部位と物体の固有的な部分に該当する名詞は具象名詞であるからだということが分かる。また (25c) の相対的な空間概念は抽象性を持つ概念であるが、空間名詞も場所名詞の類に属するので、これも具象名詞と見なさなければならない。前節で述べたように、具象名詞の場合、普通は「とても NP がある」構文に入ることができない。

ここで、例文(1)(2)を振り返ってみる。その中に出てきた5つの名詞について、「カシオの腕時計」が譲渡可能な所有になり、一方「兄弟」(親族関係)、「エンジンとタイヤ」(物体の固有的な部分)と「自信」(精神的状態)は譲渡不可能な所有に属する(以下で例文(2)を再掲する)。

(2) a. *私に (は) とてもカシオの腕時計がある。

b. *私に (は) とても兄弟がある。

c. *車に (は) とてもエンジンとタイヤがある。

d. 私に (は) とても自信がある。

上記の考察から結論付けられるのは、譲渡可能な所有は「とても NP がある」構文に入れることができないことであろう。しかし一方で、譲渡不可能な所有に属するものにもこの構文に入れられるものと入れられないものがある。つまり、「とても NP がある」構文に入る名詞は「譲渡不可能な所有性」を持っていると言えるが、「譲渡不可能な所有性」を持っている名詞だからといってこのタイプの構文に必ず入るとは限らない。要するに、「譲渡不可能な所有性」は「とても NP がある」構文に入るのに必要な制約条件の一つであるが、十分条件ではないのである。

5. まとめ

本稿は、「とても NP がある」構文の意味的段階性は動詞「ある」ではなく、文中に使われる「が」格名詞 (NP) の意味構造から来していると主張し、Tsujiura (2001) が主張した「とても」と共起する必要条件を検討しながら、「とても NP がある」構文に現れる名詞の種類や制約条件を考察した。その結果、①状態の成分、②段階的属性、③評価性、④抽象性、⑤譲渡不可能な所有性の5つの条

表2 「とても NP がある」構文に用いられる名詞の制約条件

制約条件	状態の成分	段階的属性	評価性	抽象性	譲渡不可能な所有性
「が」格名詞	+△	+△	+	+△	+

(表2の「+」はこの構文に入るのに必要な制約条件、「△」は十分条件を表す)

件を満たす名詞こそがこのタイプの構文に入れられることが明らかになった。

表2に示したように、この5つの制約条件は必要度が異なり、その中で特に重要なものとしては、「状態の成分」「段階的属性」「抽象性」の3つが挙げられる。要するに、「が」格名詞（NP）に「状態の成分」「段階的属性」「抽象性」の3つの制約条件が揃った場合に、「とても NP がある」構文に入れることができる。また、「評価性」と「譲渡不可能な所有性」の二つは、「とても NP がある」構文に入れるために必要な制約条件として数えられるが、十分条件ではない。むしろこのタイプの構文に用いられることによって、この二つの性質を付随的に帯びることになると言えるかもしれないのである。

参考文献

1. Kenedy, Christopher. (1997), *Projecting the Adjective. The Syntax and Semantics of Gradability and Comparison*, Doctoral dissertation, Santa Cruz: University of California (ProQuest Dissertations & Theses Full Text).
2. Kenedy, Christopher. & Louise, McNally. (1999), *From Event Structure to Scale Structure: Degree Modification in Deverbal Adjectives*, Mathews, T. & D. Strolovitch (eds.) *SALTIX*, Ithaca: CLC Publications:163-180.
3. Kenedy, Christopher. & Louise, McNally. (2005), *Scale structure, degree modification, and the semantics of gradable predicates*, *Language* (81):345-381
4. Pustejovsky, James. (1995), *The Generative Lexicon*, MIT Press.
5. Tsujimura, Natsuko. (2001), *Degree words and scalar structure in Japanese*, *Lingua* (111): 29-52.
6. 小野尚之 (2007) 「結果述語のスケール構造と事象タイプ」小野尚之編『結果構文研究の新視点』ひつじ書房 :67-101
7. 小野尚之 (2015) 「構文的重複語形成—「女の子の子した女」をめぐる—」由本陽子・小野尚之編『語彙意味論の新たな可能性を探って』開拓社 :463-490
8. 三原健一 (2009) 「スケール構造から見る結果構文」小野尚之編『結果構文のタイポロジー』ひつじ書房 :141-170

【本稿は2014年度（中国）“湖南省哲学社会科学基金一般項目”研究助成費（課題番号14YBA081）及び2017年度“湖南大学中央高校基本科研業務費”による研究成果の一部である】

